

## 今月の テーマ

# 金融リテラシー“金融商品と向き合う” 「預貯金」

つぶやき  
がんちゃんの

生活に何かと役立つ連載コラム

# 生活知恵袋

せい  
か  
つ  
ち  
え  
ぶ  
く  
ろ

Vol.142

## ●秋田県民の動向と判断力

秋田県の県民性を47都道府県別に比較すると、実際に興味深いものが出てくる。金融においては、「金融リテラシー調査」として金融広報中央委員会が18歳以上の「お金の知識・判断力」を調べるために、全国2万5千人を対象にした大規模なアンケート調査を行っている。その回答は、県別・年代別・男女別にまとめられている。

### ●金融知識・判断力

金融知識・判断力に関する正誤問題の秋田県における正答率は、全国平均並み(47都道府県中24位)だが、例えば「人生の3大費用とは何か」という問題の正答率に関してみれば、全国最低であった。正解は、「子の教育費、住宅購入費、老後の生活費」であるが、皆さんはお判りだろうか?また、緊急時に備えた資金を確保している人の割合(48.6%)は全国平均を下回る(43位)。また、老後の生活費について資金計画を立てている人の割合(27.7%)は全国最低という状況にある。しかし、期日に遅れずに支払うをする人の割合(86.3%)は10位、東北ではトップで秋田県民の勤勉さが伺える。NHKの受信料支払率にあっては全国トップである。

### ●金融知識・金融商品の利用選択

消費者ローンを利用している人の割合(2.8%)は全国でも低い(42位)。また、元本の変動リスクのある金融商品の購入経験をみると、株式を購入したことがある人の割合(24.1%)は全国平均を大きく下回る(38位)。その一方で、



こちら

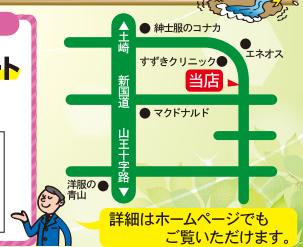
## 保険と暮らしの相談センター

### “ご加入中の火災保険は大丈夫!?”

近年、局地的な豪雨や落雷、竜巻、異常な大雪などにより家屋や家財の損害が増えています。現在ご加入中の火災保険でしっかりと対応できますか?ぜひ補償内容をチェックしてみましょう!!

お気軽にご相談ください。

株式会社  
トータルライフサポート  
〒010-0916 秋田市泉北3丁目17-22  
●営業時間／9:30~18:00  
(土・日・祝日は9:30~17:00)  
●定休日／水曜日  
**TEL 018-827-7611**  
**FAX 018-827-7610**  
**URL http://tis-akita.co.jp**



投資信託を購入したことがある人の割合(26.9%)は全国平均を上回る(19位)。しかし、商品性を理解せずに投資信託を購入した人の割合は50.0%で全国平均(31.3%)東北平均(32.4%)を大きく上回っている。不用意な損失を招かないためにも、金融商品の利用選択におけるリテラシーの向上を高める努力をしなければならない。

唐突ではあるが、皆さんには預金と貯金の違いを知っていますか?あまり面白くない答えだが、実質的な性格は一緒であり、銀行などの扱いは「預金」、ゆうちょなどで扱いのは「貯金」と、金融機関による違いだけなのだ。では、その背景は何だったのだろうか?

むかーしむかしのお話の始まりはじまり…

昔々、江戸時代の頃までは殆どの人々は農業を営み、自給自足に近い生活を送っていました。お金も存在はするものの、今ほど使われてはいませんでした。明治時代に入つても、父ちゃん母ちゃんの暮らし向きは貧しい今まで、誰かさんのように、「将来のためにお金を貯める」という習慣はありませんでした。そこで旧大蔵省は、庶民に「お金を貯めること」を奨め、さらには集めたお金を国のために利用できると考え、「郵便貯金」を始めたんだ。こうして誕生したのが桃から生まれた…もとい、旧大蔵省から生まれた庶民を対象とした貯金制度だったそうな。

一方、明治時代の中ごろに日本で初の銀行が誕生したものの銀行にお金を預けられたのは、お金持ちの商人や企業などでした。それというのも、預け(預金)られる最低金額が1口5円(現在の20万円~30万円程度)以上などと決まっていて、とても庶民の父ちゃんが利用できるようなものではなかつたんだ。こうして、庶民がお金を貯るために始まった「貯金」と、商人や企業がお金を預け運用するために始まった「預金」とになつたんださ。めでたし、めでたし…。何が…?

## ● 預金と貯金

預 金	貯 金
・銀行	・ゆうちょ銀行
・信用金庫	・JAバンク(農業協同組合)
・信用組合	・JFマリンバンク(漁業協同組合)
・労働金庫	

## ● 預貯金の特徴

一口に預貯金と言つても様々であるが、意外にもその違いやそれぞれの持つ特徴を知らない方も多いのではないか…。その最たる特徴は、元本保証があることだ。元本保証は金融機関が預った資金の元本を保証し、将来受取ると既に目減りしないというものだ。仮に、取扱金融機関が経営破綻に陥ったとしても、預貯金は預金保険制度や貯金保険制度により一定範囲で保護されており、最も安全性・流動性の高い金融商品と言えるものだ。将来の生活設計を立てる上で、元本が保証されていることは非常に大切な要素であり、目減りさせてはならない資金を貯めておく手段としては、金融商品選びの重要なポイントになる。金融商品における教育は非常に重要であるにも拘らず、日本における金融教育は実にお粗末なものがある。とりわけ、学校教育の現場での役割は重要だし、また、新社会人に対する金融商品等の教育は避けては通れないくらい重要なが、一体誰がその役割を担つているのだろうか…。何とも答えが見つからない。ならば「つぶやきがんちゃんの生活知恵袋」の負うところの役割は大きい。ここはひと肌もふた肌も脱がなければならないか…。

## ● 預貯金と利息

預貯金を考える場合、その利息は重要な小印であるが、今やその利息が何%であるかを気にしている人はほんのではないだろうか。ブル期を知るご同輩の中には、「考えただけでも腹が立つ」とお怒りの声を上げている方もいるかもしれないが…。バブルと言われた時期の普通預金は平均利息は2.0%程度、定期預金は6.0%、郵便局の定期貯金は8.0%にも達し、そのまま複利計算すると9年間で元金が2倍になったのだから夢のような話だ。利息の実額では普通預金に100万円を預けると2万円、定期預金では8万円もの利息が付いていたから驚きた。かつては、預けておくだけで資産運用と言えたのが、今や普通預金利息は0.001%、100万円預けても10円だから、もはや見る影もない。安全確実な投資として、もはや資産運用とは程遠いことは言うまでもないが、預貯金の利便性には無視できないことが少なくない。改めて預貯金の金融商品の利用方法を一緒に考えてみよう。

## ● 預貯金の税金

皆さんは預貯金の利息に税金がかかっていることを存じだろうか…?近年、利息と言われる位に目立つ金額にお目にかかることはないが、何円という利息であってもしっかりと税金はかかっている。

預貯金の利息にかかる税金は「源泉分離課税」いうものだが、これは他の所得と分離して一定の税率で税金が源泉徴収され、それで納税が完結する課税率方式で確定申告の対象とはならない。銀行などが利利息を支払う際に、一定の税率で税金を徴収、それだけで納税が完結している。通帳に記載されている利息は、税引後の残りの分であり、そのため税金が引かれたこと自体に気付かないでいるだけだ。預貯金の税率は一律20.315%(所得税・復興特別所得税15.315%・地方税5%)だ。普通預金の利息が0.001%で、その僅かな利息の中から20.315%もの税金が源泉徴収されている。なんと20315倍だが、どうでもいいか…。

## ● 来月号は

預貯金の金融商品の活用方法を考えてみよう。